

## はじめに —活動報告の作成にあたって

新宿の街は、江戸時代に甲州街道の宿場町「内藤新宿」として武蔵野台地に拓かれ（元禄12年1699年）、明治・大正・昭和そして平成と時を経て大きく発展してきました。

新宿駅は一日の乗降客数が370万人の世界最大級のターミナルとなり、駅東口エリアには様々な人たちが往来し、最近では外国人の来街も多く国際的な街としての様相を見せており、多種多様なモノやコトが楽しめる大繁華街として賑わっています。

新宿研究会は、この新宿の街のあり様について幅広く考察し、街づくりについて提言・提案することを目的に、地元商業者の方々を含め新宿の街に愛着を持たれる有志が集い平成16年7月に発足しました。（注1）

当時、新宿東口周辺は日本最大の交通結節点として賑わっていましたが、「駅広や歩道が狭い、歩きにくい、緑が少ない、汚い、怖い、・・・」といった指摘もあり、「安心安全、歩きたくなる街・新宿」が街づくりの目標でした。

このまちづくりの課題に応えるべく、新宿研究会は「新宿学」研究と新宿の「まちづくり」活動を両輪として取り組んできました。

### 「新宿学」研究について

発足当初より「新宿学」講座（早稲田大学オープンカレッジ）を開講し、これと併せて研究会やシンポジウムを開催、新宿の街の成り立ちや歴史的変遷、商店の盛衰、文化・娯楽や空間利用の特質など多面的にテーマを取り上げて考究してきました。

新宿学講座は200回を超え、公開の研究会やシンポジウムも20回を数え、過去・現在・未来にわたる新宿の街のあり様について有益な知見を得ることができました。その活動成果は会報に、また「新宿学」講座については、『新宿学』（紀伊國屋書店刊）としてまとめ出版しました（2013年2月）。

### 「まちづくり」活動について

新宿が目指す「歩きたくなる街・新宿」「賑わい先導都市・新宿」をどう実現していくか、これがまちづくり活動の原点で、「街のモール化、歩いて楽しい回遊性の高い街づくり」をキーワードに「新宿東口メガ広場構想」、次いで「淀橋・追分・御苑 散策大路・小路構想」を提案、さらに本構想の実現に向けて問題や課題をより具体的に検討するために「『新宿駅周辺の歩いて楽しいまちづくり』のための公共空間再生調査」（国の助成事業 全国都市再生モデル調査 平成19年度）を実施しました。

平成21年から23年にかけて、東京メトロ副都心線の開通により活発化する街づくりの動きに対応して、新宿区は「新宿駅東口まちづくり構想案」を策定することになり、新宿研究会はその構想案作成部会に準備段階から参加、そして構想案の提言により「新宿EAST推進協議会」が創設されることになりました（2011年2月）。（注2）

協議会発足後は、同協議会への技術的・専門的な支援活動がメインとなり、具体的には新宿区から「新宿駅東口地区 地区計画等策定支援業務」を受託、実施しました。このために

“プランナーズ会議”を立ち上げ、協議会のまちづくりの会議（理事会や地元関係者の意見交換会）の資料作成、地区計画案策定などへの支援を行ってきました。（注3）

協議会は現在、街の将来イメージ「交流核+モール&パサージュ」を目標に、その実現に向けて取り組んでおりますが、その活動を支援するためにテーマを選んでシンポジウムや研究会などを開催、特に昨年7月には活動の総括の意味合いを込め、新宿の街の特質を踏まえて「路地と横丁のある繁華街」をテーマに記念シンポジウムを開催しました。

以上が活動経緯のあらましですが、新宿研究会は昨年8月をもって閉じることになり、活動記録をまとめることにしました。「新宿学」など既に発刊されているものを除き、最後の記念シンポジウムの内容紹介と、概ね直近5年分のまちづくり活動—シンポジウムや研究会などを中心にとりまとめました。

今、時代の転換期にあつて、そして新型コロナウイルス禍のなか、大勢の多様な人たちが賑わう繁華街のあり様が改めて問われています。

新宿駅周辺の街づくりは、東西自由通路が開通し、さらに2040年代を目標に「新宿グラウンドターミナル構想」(東京都・新宿区)や「新宿駅東口地区まちづくりビジョン」(新宿区)の具体化に向けて動き出しています。

「新宿の街の特質とは何か」「新宿らしさとは何か」がしばしば話題となりますが、社会の状況や人々の様々なニーズにしなやかに対応して、新宿の街の特質を進化、発展させていくことで、大衆から愛され親しまれ、そして輝き続ける、そのような街づくりの展開に本冊子が少しでもお役立てればと念じます。

最後に、本研究会の活動に16年間の長きにわたりご協力いただきました関係各位、特に地元事業者や行政の方々に心より感謝申し上げます。

新宿研究会 会長  
吉田拓生

- (注1) 新宿研究会は「早稲田大学と新宿区との協働連携に関する基本協定」を基に設立され、初代会長は戸沼幸市早稲田大学名誉教授、白井克彦早稲田大学総長(当時)と中山弘子新宿区長(当時)の両名を顧問に迎え、会員は学識経験者、都市計画やまちづくりの専門家を主体に地元事業者(商店街振興組合代表者など)が参加。(別添1「新宿研究会会員名簿」)
- (注2) 地元事業者や地元住民を正会員とする組織で会長は竹之内勉新宿大通商店街振興組合理事長、役員は地元4商店街振興組合の代表者等で構成、一般の企業や個人は賛助会員として参加。
- (注3) 新宿 EAST 推進協議会への専門的技術的支援は、協議会・新宿研究会・新宿区の三者による「新宿東口地区のまちづくりに関する覚書」を締結して実施。